

城東

● 城東地区 ●
1945 世帯
男 1820 人
女 1951 人
合計 3771 人
H 29.1.1 現在

町内公民館長会の視察研修から 『富山県四季防災館・イタイイタイ病資料館』

町内公民館長会は、11月13・14日に、富山県内2施設の視察研修を行いました。

《県広域消防防災センター・四季防災館》

消防学校及び管理棟（災害時に対策本部となる）に隣接し、災害や防災について県民が学習する施設。館の中で数々の体験ができます。



防災映像

「防災映像体験」

施設担当から館全体の概要と、富山地方における四季そ

れぞれの災害について説明を受けた後、映像を視聴しました。

過去におきた土砂災害や津波災害を参考に、適切な避難行動がとれるような内容になっていました。



防災用品の説明

「地震体験」

数人ずつ荷台のような装置に乗り、震度1から7まで各段階の揺れを体験しました。また、関東大震災、阪神・淡路大震災や東日本大震災などを再現した揺れも体験できました。震度5以上は、手すり

に掴まっていけないと立ってられず、横揺れだけでなく、縦に揺れると、より恐怖心が増すことを実感しました。



地震体験

「風雨災害体験」

10 m位の施設で、一方の壁から風速30 mの風が吹き出てくるというもの。メガネを外すか、専用のゴーグルを身につけなければなりません。手すりを掴まねば体が安定せず、1分間がとて長く感じられました。雨合羽を着ての雨体験もできるとのことでしたが、体験してみようというメンバーはいませんでした。

「煙体験」

ホテルの客室から避難することを想定したもの。火災報知器が鳴ると同時に煙（健康には害はないとのこと）が充填し、視界を遮られました。ハンカチで鼻を押さえないと、できるだけ煙をすわらないよう体を低くして行動しまし

た。距離が短かったこと、誘導灯がかすかに見えたことで救われましたが、火災が現実の時、冷静に行動できるか不安になりました。



煙体験

《県立イタイイタイ病資料館》

富山県の神通川（じんづうがわ）流域で起きた日本の4大公害病の1つ。患者がイタイイタイと泣き叫んだことから病名がついた。

「歴史と原因」

明治時代後半から、神通川の水が白く濁ったり、周辺の稲が育たない等の異常が続くようになった。◆漁業や農業に被害が始め、生活用水として使っていた人の中に病気に苦しめられる人が現れた。全身の様々な部分が痛くなり、骨がもろくなるという病気であった。◆昭和30年に新聞報道されてから、原因をつきとめようと、多くの医師や研究者

が調査や研究を始めた。◆昭和43年に当時の厚生省が、イタイイタイ病を公害病であると発表。原因は神岡鉱業所の排水に含まれるカドミウムが原因と判明。

「克服の経過」

昭和43年、神通川流域の住民たちは団結し、神岡鉱業所の経営者である三井金属鉱業に対し裁判を起こした。◆昭和46年、被害者である住民たちが裁判に勝利。◆裁判が終了した翌日、住民側と会社側で3項目の協定が成立した。

①患者に対する損害賠償②公害の防止③汚染された土地の復元◆会社側は鉱山や工場等を改善し、住民側は立入調査を実施◆汚染された土地は客土工法により順次復元され、平成24年に復元完了。

公害病の恐ろしさ、歴史と原因、克服の経過を学ぶことにより、環境と健康の大切さを再認識しました。（増田）



イタイイタイ病について学ぶ

「留学生と行く 交流バスハイク」 に参加して



城東公民館主催の留学生と行く交流バスハイク(文化財見学)が、11月3日に行われた。

私は英語が話せなくても大丈夫にひかれ参加した。留学生男女11人、信大生チューター(留学生一人に一人つく相談者)一人、城東地区の皆さん10人が公民館を出発。早速、自己紹介が始まった。流暢な日本語に感心している

と、ドイツ、中国、アメリカ、タイ、オランダから来ていることがわかった。私の隣に座った青年は中国人の柳宇陽さん、上海の大学3年、日本語科で6ヶ月間日本語を学びに来ており松本を大変気に入っているそうだ。好きな日本食は、カレー・ラーメン・寿司・馬刺しとのことでした。



馬場家住宅の説明

最初の見学地、重要文化財馬場家住宅に着いた。丘陵に広がる田園風景と北アルプスを見ながら表門に入った。学芸員の案内で、本棟造、棟飾りの雀おどしの説明を受け主屋に入った。いろいろ、古道具、座敷を見て江戸時代の生活にふれて留学生は興味津々。特別に用意された着物を、参加した女性の皆さんに着付けをすると大喜びで記念写真に納まった。



着物に挑戦

二番目の見学地は、厄除けで有名な牛伏寺。大木の杉並木に登り山門をくぐり観音堂にお参り。そして本尊十一面観世音菩薩像等、8牀の国の重要文化財が安置されている宝物殿を特別に見学。大谷副住職から寺の由来、仏像群の説明を受けた。その後、庫裏で温かいお茶と羊羹のおもてなしに一同笑顔。



牛伏寺見学

最後の見学地は大正7年に完成した牛伏川フランス式階段工。19段の石積み美しい水の流れを見ながら、先人たちの偉業に思いを馳せた。



牛伏川フランス式階段工にて

昼食となり、バスハイクの締めくくりに留学生の感想を聞くと全員、楽しく、よい思い出になったとのことであった。

私は留学生の松本滞在の無事を祈り帰途についた。

(藤本)

旭町小 学校応援団に感謝の会

11月30日に、旭町小学校の子供たち(全校児童382名)が参加して、ボランティアとして登校時の安全見守りや一斉挨拶運動などの活動を行っている「学校応援団」の人達を招き感謝の気持ちを伝える会が行われました。

応援団は約50名が活動しており、今回は城東地区の18名をはじめ横田、安原地区の方も含めた22名が参加しました。(城東地区の活動者数は28名)

学校応援団は、地域が学校と連携して子供たちを育てる「信州型コミュニケーションスクール」の一環として取り組んでいるボランティア活動で、見守り活動の他にも、さつま芋の栽培と料理を体験する授業の指導なども行っています。スイートポテトを作ったそうです。

感謝の会では児童の歌が披露され、子供から参加者へ即席のインタビューが行われるなど楽しい時間となりました。

また、児童直筆の手紙、折り紙のメダル、パンジーの苗の3つを贈られ感謝を伝えら



感謝の会の様子

れた参加者たちは、とても喜んでいました。

企画の中心となった児童会ボランティア委員会の皆川和月委員長(6年)は「お世話になっている皆さんが喜んでくれたらうれしい」と話し、鏡味洋子校長は「大事な命を守り、生きる上で大切なことを教え、見守っている応援団のみなさんへの感謝を忘れないで下さい。」と語りかけていました。

活動のコーディネータを務めている原田武邦城東公民館館長は、「活動を始めてから3年目を迎え、日頃から多くの方々に参加して頂き大変感謝しています。今後も地域と学校の関係を深めていきたい。」と話していました。

(小島)